

自著を語る

コロナ禍を生きた 移民と家族

—中国・フィリピン・ベトナムと
日本を結ぶネットワークと
共同体の持続と変容

講演者

賽漢卓娜 (長崎大学多文化社会学部教授)

高畑幸 (静岡県立大学国際関係学部教授 / CEGLOS 研究員)

新型コロナウイルス感染症の拡大開始から間もなく
7 年になります。誰もが自由に国境を超えて移動する
「大移動時代 (モビリティの時代)」が日常化した社会
を、一瞬にして行動制限と国境封鎖の「非移動時代」
へと変えたのがコロナ禍でした。

この未曾有の危機は、従来の人の国際移動、移民と
その家族、移住先国での移民集団にどのような変革をもたらしたのか。中国系、フィリピン系、ベトナム
系移民を対象にした綿密な調査により、各移民グループの相互扶助活動に着目し、その主体性と連帯性を
明らかにするのが本書です。

今回のイベントでは本書の内容を紹介し、国境を超える日常を生き、家族を維持する移民たちの苦難と
絆とレジリエンスを考えます。本書に関心のある様々な方のご参加をお待ちしています。

2026 年 11/16 月 16:30 ~ 18:00

会 場 オンライン (Zoom) 無料

対象者 どなたでも

お申込み方法

右記 2 次元コードを読み取って必要事項を入力し送信してください。
(<https://forms.gle/wvnS5GdmMqUVXQBw5>)

問い合わせ 高畑幸 (takahata@u-shizuoka-ken.ac.jp)

主催：静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属 グローバル・スタディーズ研究センター (CEGLOS)



(明石書店、2026 年)



◀お申込みはこちら
締め切り

11/12 木 20:00